

# 城北



平成 31 年 1 月 1 日 現在	
総世帯数	3,640
総人口	7,805
男	3,701
女	4,104

## 城北の 石碑

### 所願成就・地域の護り神 蟻東の青面金剛像

蟻ヶ崎東町会公民館前の道を少し南に下った東入の小路に厳めしい石仏像が立っています。「お庚申様」として知られる高さ約 1m ほどの青面金剛像で彫もよく、その脇の城北公民館が十年ほど前に建てた、庚申塔を解説する文化財看板には、明和三年（一七六六年）の建立とあります。古老の話では、この小路の奥にお堂があったそうです。

あと三戸と呼ばれる虫が人の体内を抜け出し、天帝に当人の罪過を上告し短命にするとされました。

それを防ぐため、庚申の夜は身を慎み、徹夜するという信仰が生まれました。

平安時代初期には「守庚申」の行事として宮中や貴族の間で詩歌管弦の徹夜の行事がおこなわれるようになりました。

室町時代には仏教と結びつ

いた「庚申講」として民間にひろまり、本尊には阿弥陀・観音・地藏などと共に青面金剛が礼拝されています。行事の供養や祭祀のしるし石塔が造立されたりもしました。

#### 庚申塔

青面金剛は、仏法に帰依する人々を守る帝釈天に従う毘沙門天の眷属です。

伝戸病（結核などの伝染病）の予防や治療をお願いしていたことから、青面金剛が伝戸三戸の関連で「庚申講」の崇拜対象となつたと考えられています。

祈りの場が寄合いへ

「お庚申様」の信仰は平和な江戸時代になると、豊作・豊漁の神・蚕や馬の守り神・商売繁盛の神として、また地域社会の結集と娯楽性が魅力となり、さらに広まりました。

「庚申講」の集りは、激しい労働に明け暮れる人々には飲み喰いしながら、仕事や家庭の諸事を打ち明け談合することとに無上の喜びを味わえる意思疎通の機会でした。ときには歌や踊りも出て、何にもかえられぬレクリエーションの場でした。

同信者の寄合いから深く地域に浸透し、助け合いや自治的機能にまで発展した「庚申

講」は、江戸中期から幕末・明治時代にかけて日本中で続けられました。

守護神の変遷

仏様への信仰だった「庚申講」ですが、神道が力をつけた幕末には守護神に猿田彦も加わって、道祖神や念仏供養塔とともに塞の神として村の入口に鎮座するようになりました。

蟻ヶ崎の塞の神は「姫の宮」神社の西方、塩釜神社との間にある蟻ヶ崎西との境界辻に念仏の名号塔として建てられており、昔からこの場所は三九郎場と言われていました。



2019 図

お待ちかねの昼食は注文のオードブルの他、多くの差し入れでテーブルが賑わい、また町内の八重桜を漬けた桜茶を未だ遠い春に思いを馳せながらいただきました。

老若男女の集う楽しい新年会は大盛況のうちに閉じられ、新しい一年の始まりにワクワク期待感を持てるひとときとなりました。

## 新年会

2019 図

一月五日深志ヶ丘町会では二年ぶりに新年会が開かれました。参加人数の減少で昨年度は見送りましたが、今年度は町内行事への参加率が高く、波に乗って楽しく新年を迎えよう!! ということになりました。

十時からは、かるた、トラン



2019 図

道教思想では庚申の夜、人が寝た



2019 図

# 年 末 年 始 の 行 事

年末年始は一年の締めくくりと、新しい年を迎える準備で大忙しです。  
 子ども達は書き初めを頑張り、小正月は松飾りなどで組み立てて燃やす三九郎  
 を楽しみ、柳の枝につけたまゆ玉を焼いて食べ、三学期を頑張ります。

